

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500160		
法人名	ナチュラルケア 中津川		
事業所名	グループホーム恵寿弐番館		
所在地	岐阜県中津川市苗木4618-96		
自己評価作成日	平成31年2月19日	評価結果市町村受理日	平成31年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2191500160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成31年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム恵寿弐番館では、たとえ認知症になったとしても最期まで「人が人として生きていく」上で、その方の人生・大切にしている事、大事な人、などを受け止めると同時にわれわれ自身がどのようにして入居者様に受け入れられるかを常に考え、喜び、悲しみ、楽しみ、苦しみを共感し合い、その上で「恵寿」という「もう一つの家」で一緒に暮らす事を目指します。また、スタッフに関しても法人独自の研修を取り組み、「尊厳あるその人らしい穏やかな生活」を目標とし、より良いケアを目指し取り組んでいます。地域との交流に加えて、認知症と言う病気を理解していただける働きかけを積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年、ホームの近くに小規模多機能型事業所を開設しており、連携しながら地域に密着した事業運営を実践している。利用者は、小規模多機能型事業所で行われる三味線の演奏を聴きに行き、懐かしい曲、迫力ある三味線の音に涙したり、合同で納涼祭を行うなど、利用者の活気ある暮らしを支援している。職員には、看護師、歯科衛生士、調理師の有資格者がおり、その専門性を遺憾なく発揮し、手厚い医療や感染・誤嚥予防に努めながら、豊かな食生活も支援している。管理者は、職員が働きやすい職場環境作りに努め、職員と共に対人援助の専門性を磨き、学び合いながら利用者との信頼関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という理念をあげ、常にナチュラルライフの関わりでの7原則を念頭におき、穏やかな生活が出来る様に日々のケアに努めている	理念は、ナチュラルライフの7原則と共に、職員や来訪者の目に付きやすい場所に掲示している。理念の意義をミーティング時に確認し、利用者一人ひとりが尊厳を持って、その人らしく穏やかな暮らしが送れるよう支援し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の行事、お祭りに出来る限り参加させていただき、お散歩も兼ねて回覧板を置きに行っている。事業所主催の夏まつりには地域の方にもお知らせし、お越し頂いている	自治会に加入し、町内会議や地域の行事、祭りなどに参加している。事業所の納涼祭には、多くの地域住民が参加している。また、高校生の介護実習、小学生との交流、ボランティアも継続して訪れている。近隣とも親しくつきあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議において最近の入居者様の状況を報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議では最近の利用者様の様子、地域と施設との係わり方について話し合いをしている	会議では、運営の実情や利用者の近況を伝え、式次第に沿って行っている。出席者が気軽に発言できるよう雰囲気作りに努めている。区長や行政担当者からも有意義な助言や情報の提供があり、それらを運営に反映させている。	運営推進会議開催後の議事録として、出席者の明記と発言内容や意見交換の概要を記録し、サービス向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議に出席していただいたりグループホーム部会で担当の方よりお話を頂いている。又介護相談員の方よりご意見を頂いている	担当者には、運営推進会議の中でサービスの取り組み状況を伝え、市主催の事業者部会やケアマネ部会に参加している。事故や感染症などの報告は速やかに行い、法改正や困難事例についても相談し、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておらず、年に2回の身体拘束の研修を行い、本当にその方に必要なのかを職員の理解を深めるとともに、身体拘束を行わないようにその人に合ったケアに取り組んでいる	身体拘束等廃止委員会を設け、3か月毎に委員会を開催している。計画的に職員研修も行っている。止むを得ない場合は、家族の理解を得て、最小限に留め、早期に解除できるよう工夫している。常に利用者に寄り添い、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回 虐待についての研修を行い、虐待が見過ごされる事が無い様、行われる事の無い様防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるのその方の後見人さんと制度についての話をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、契約内容の説明を行い、疑問があれば連絡をいただけるようお話ししている。又 退居改定がある際は説明をさせて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から面会時、又は電話でご意見ご要望を伺っている。又利用者様から普段の会話から要望を聞いたり介護相談の方よりお話を聞いている	家族の面会時や電話の際に、意見や要望を聴いている。ホーム通信と共に、看護師の医療情報を添えて送り、家族との信頼関係を築いている。利用者の意向は、日頃の関わりと会話の中で把握し、介護相談員からも情報を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員には責任を持って業務をしてもらっている。又気付いた事等は話を聞き対策を考え、月1回のミーティングで意見交換を行っている	管理者は、月例のミーティングで、職員の意見や提案を聞いている。利用者の口腔ケアの重要性や、ケア方法の統一などを話し合いながら、休憩時間、柔軟な勤務調整等を検討し、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が働きやすい環境であるよう、個別に面談を行い条件に合うよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアの中で不安になっている事、問題になっている事の研修をその都度行っている。又外部の研修へ参加する職員もいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ部会、グループホーム部会に定期的に出席し意見交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時は必ず本人の面談を行ない、本人の気持ちや要望を聞き、ご本人が安心して生活しやすい雰囲気を作り不安等を受け止めるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からご家族が困っている事、要望等を伺い、電話でもお答えするようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご家族よりご本人の様子又はご家族のご要望を伺い、問題点を見極めケアマネと情報交換を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で時間を過ごす中で、お年寄りと一緒に生活したり作業に取り組むことで支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お電話で最近の様子、ご本人の言葉などをお話し病院受診、美容院等にご協力を頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に基本情報シート等を使用しなじみの美容院へ行ったり、お友達の面会があったりする。又お手紙での交流や電話のやり取りをされる方もいらっしゃる	家族や親戚、友人が訪れ、一緒に美容院や買い物などに出かけたり、一時外泊をする利用者もある。職員は、手紙のやりとりや、携帯電話を使う人のサポートを行い、馴染みの人との継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別の性格、利用者様同士の関係性を見極め、利用者様同士が支え合う場面を保てる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の支援場所の最新情報を出来る範囲で調べお伝えし、その後も状況に合わせてご家族と連絡を取るよう心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴を把握し、ご本人のお話から希望や意向も汲み取れる努力をしたり、ご家族から伺う又はご本人の立場に立って考えるように努力している	日頃の個別ケアや会話の中で、利用者の思いを把握している。意思表示が困難な人は、問いかけの反応や家族の情報を参考に把握するよう努めている。一人ひとりの人格や習慣、こだわりを受け止め、本人本位の暮らし方や生きがいにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族からご本人の生活歴等の情報を頂いたり、入居後もご本人とお話をし情報を集めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を利用者ごとに把握し生活の様子等をケア記録、連絡ノートに申し送り、把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の身体状況、言動等を把握し話し合い、現状にあった介護計画を作成している	面会時に家族の意向を聴き、職員の意見や気づきを集約して介護計画に反映させている。また、利用者の状態によっては、主治医の意見を確認し、適切な医療を受けながら、体調を維持し、安心して暮らせるような計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノートに記入し情報を共有し見直しに活かしている。個人記録の取り方は事業所独自で開発し幅広い年齢でも使えるよう、そして職員の負担軽減も図るためバーコード形式を導入しました		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人の思いを汲み取り対応できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏休みを利用して地元の高校に通う生徒に介護実践研修をして頂きました。市や地域、地元の高校と連携を図り、ボランティアや少しでも介護の仕事に興味がある学生の研修の受け入れを考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に一回/月に受診にお連れしている。ご家族にて受診に行かれる場合は、最近の様子をまとめた書面を持参していただき、事業所とかかりつけ医との連携を図っている。また、受診後にご家族に報告してご家族との情報共有に努めている。	月1回、職員の看護師が協力医への受診同行を行なっている。協力医以外への受診は家族が担当が、家族の都合や疾患に応じて、職員の看護師が代行している。医療情報は家族と関係者が共有し、主治医との連携を図りながら、急変時の手順を整え、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事やいつもと違う様子は、即時管理者と看護師に連絡しており、必要に応じて記録に残している。そのため早めに受診に行くことができ、早期対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必要に応じて介護又は看護サマリーを提供している。入院中は一度以上は訪問している。退院後も円滑にケアを継続できるように担当看護師より情報収集している。医師からの説明時はご家族が希望された場合に限り付き添っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には重度化した場合も継続してケアをしている。ターミナルケアはご家族が希望され、当施設の体制が整った場合のみ受け入れしている。上記のいずれもご家族と面談を重ね、希望を取り入れたケアを提供している。また話し合いの結果は、職員全体で情報共有し、ケアの統一を図っている。	利用者が重度化しても、ホームで支援を行えるよう取り組んでいる。終末期は、家族の選択を尊重し、医療行為を伴わない自然な看取りに関して、可能な限りの支援体制を整え、家族、主治医、ホームの連携が取れる場合のみ看取りを検討する。緊急時には、市民病院のドクターカーを要請している。	重度化や終末期の向けの指針の明確化と協力医との緊密な連携、職員が安心して看取りに望めるよう、学習会やメンタルケアについても期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今の所全職員の対応は出来ない状況。職員ごとの対応力に差がある。緊急時の連絡先を明確にし、知識のあるスタッフからの指示で行動することで対応している。今後順次講習や訓練などを進めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を職員、入居者様対象に2回/年行っている。消防の方に来てもらって避難誘導の指導をもらったり、消火器や火災受信機の使用方法について講習を受けている。	災害訓練は消防署の指導の下、災害別や夜間も想定して、初期消火や誘導訓練を実施をしている。連絡網には区長の名も連ね、協力を得られる体制にある。小規模多機能型事業所とも連携し、ガスコンロや懐中電灯、ヘルメット、飲料水、保存食等の備蓄を完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時は小さな声、耳元で声掛けをしている。居室は個室になっており居室で過ごされる方もいらっしゃる	基本ケアの7原則を掲げ、全職員に周知を図っている。話すときは目線を合わせ、ゆっくり、静かに、利用者が安心感が持てるようなケアを心がけている。また、入浴や排泄時の介助は、羞恥心に配慮し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から希望の思いを聞き取ったりどうするかをなるべく自分で決めて頂くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールはあるが利用者様に関しては出来る限りご希望に答えるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族がご用意して下さっている。不足分はこちらで購入することもある。ご家族と美容院へ行ったり、そうでない方は定期的に訪問美容室を利用され、カットだけでなくカラーやパーマも対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作業をできる方はいらっしゃるがリビングにてカウンター越しに職員と献立の事について話をし、好きな物や季節の物をお出ししている。他の利用者さんのお膳を下げて下さったり食器拭きをして下さる方がいらっしゃる	利用者の嗜好を把握し、献立に取り入れたり、満足感が得られるよう、味付け・品数・彩り豊かな食事を提供している。食事制限のある利用者にも配慮した食事も工夫している。利用者は、出来映えや味付けなど、職員と会話をしながら、食事時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、食事量を把握し、食事形態においてもその人の健康状態に合った形態で提供している。食事制限のある方については出来るだけ応じている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とはいかないが歯磨きの声掛け、介助、義歯洗浄を行い、週3回の歯科衛生士による口腔ケアを行っている。ご家族の希望がある方のみ1回/月のペースで歯科医師の往診も受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便状況を毎日記録し、パターンを把握しながら時間毎にトイレ誘導しているが、尿意便意の訴えが乏しく、現状でオムツからの離脱は非常に難しい。職員は失禁時には素早く処理する事を心がけているに留まる。	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、声掛けや誘導で失敗を減らせるよう取り組んでいる。自立度の高い人、尿意の訴えが出来る人についても把握し、個々に合わせて支援している。夜間は、ベッドセンサーで察知し、安全にトイレへ誘導している。ポターブルトイレを使用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を積極的に食事に取り入れている。おやつ時には便秘気味の利用者様にスルッと茶を飲んで頂いている。腹部マッサージ等を行っているが、個別性には欠ける。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全介助入浴が多く、また受診や外出の兼ね合いもあり、固定して入浴しているわけではないが、個々の希望通りとは言えない。湯船には入浴剤を使用し気分よく入浴して頂けるよう工夫をしている。援助は自立、部分介助、全介助と個人に合わせた個別のケアの提供ができています。	入浴日は固定せず、受診や外出、汚染状況などを考慮しながら入浴支援をしている。また、その日の気分や体調に合わせて、シャワー浴や清拭に替えている。介助者との相性や羞恥心にも配慮し、同性介助の希望にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	現在は比較的夜間は落ち着いている。日中休息できる様臥床して頂く時もある。就寝時間も各々違い、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬入れに常に最新の薬剤情報を入れてあり、すぐに確認出来るが、個々の理解度はバラつきがある。服薬方法は個人別にて対応しており、一覧表にて表示してある。誤薬防止のためダブルチェック体制にしている。下剤など細かい調整が必要な薬については外に色を塗りわかりやすくしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵が好きな方には塗り絵を、歌が好きな方には歌詞カードをお渡しし、スタッフと歌ったりしている。掃除や洗濯たみなど軽作業もお手伝いして頂いている。しかし全体的に頻度が少なく、今後もう少し日常に取り入れていきたいところ。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良いときには、スタッフと近場に散歩に出かけている。欲しい物がある場合にはご家族に連絡を取り対応して頂いたり、職員と一緒に買いに行くこともある。自立した方が中心だが、お茶に出かけることもある。いずれも決まった方や自立した方が多い為、今後は車椅子の方の外出も取り入れていきたい。	事業所の周辺を散歩したり、地域の祭りや地区の三世代交流事業にも出かけ、楽しんでいる。同法人の小規模多機能型事業所とも日常的に交流し、年間行事として、季節の花見や名所地へ出かけたり、普段行けない所へは、家族の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお金が発生した場合は一旦事業所で立て替えて、その後ご家族へ請求する。自立した方はスタッフと一緒に最寄のスーパーへ行き、ご本人の欲しい物や皆さんで共有して使う物はどんな色や種類がいいか選んでいただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら居室で電話をする利用者様や施設外のお知り合いの方とお手紙のやり取りをしている方がいらっしゃるため、切手やはがきの購入やポスト投函を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには例えば2~3月は雛人形など季節に合ったものを飾り、自宅の庭に咲いている花を持ってみえる職員もおり、リビングの入り口に生けることもある。お花が好きな利用者様や仏さまを持参されている利用者様にもお花を提供し大変喜ばれている	共用の間には、季節を感じられる雛人形や手作り作品を飾っている。窓からは、プランターに植えられた花が見えている。キッチンのカウンター越しに、利用者様と職員が会話をしたり、居間の障子戸を開ければ、自然の景観が広がる居心地よい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間であるが、一人ひとりが安心できる場所やくつろげる場所、プライベートを守れる居場所を作れる様工夫している。リビングでは気が合う利用者様とお話が楽しめる様に席の配置にも気を配っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、以前から使っていた家具、生活用品を使用いただきその人に馴染みのある生活空間作りに努めている。朝、掃除をするときは居室の換気をして布団を綺麗にし、衣類等の整理整頓も心がけている。	表札を利用者の目線に掲げ、障子窓のある落ち着いた和室にはクローゼットもある。利用者の使い慣れた家具や生活用品を持ち込むことができ、好みに配置し、整理整頓も行き届いている。家族の写真や季節の花を飾り、居心地よく暮らせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状況に合わせた環境作りを行い、必要に応じて各居室にはセンサーを配置し、安全に生活できるよう職員が支援している。		